

生涯の記憶のふるさと

十九回生 宗 むね 美智子

私の両親は、幼児期の教育方針は子供の自立性を培うことと考えました。それは画一的な小型の大人に育てることではなく、発展段階であるべきと考えました。グレース幼稚園は両親の教育の理想に合うものでした。154番地の私の家からは、すぐ近くに別の幼稚園がありましたが、母は以前グレース幼稚園を見ていて、こここそが私の気質に合う所と決めていました。

ふり返ってみると、ここは私にとって正しい場所でした。私は3歳で2月18日生まれだったので、恐らく一番小さな子供だったのでしょう。私は体験したすべてが好きでした。すべてがとても自然に思われました。最初私たちは噴水のところに集まり、それから2人づつ手をつないで幼稚園に行くのです。私の好きな松木先生がそこで出迎えてくださり、一緒に歩きまし

た。商店街を通り過ぎ、線路の下のトンネルをくぐることは冒険でした。しばらく余り知らない場所を通りぬけ、ようやく幼稚園の門に着くのです。私はこの行程で疲れたことは一度もなかったと思います。

園舎にはすぐ入ったところに廊下に面して靴脱ぎ場があり、それから幾つかの異なった部屋がありました。私はトマト組で、お絵描きや折り紙などの活動をしました。園長先生のお話を聞くために、園舎のすぐ隣の芝生に出たことを覚えています。私たちは丁度背丈位の玩具小屋のある「下の運動場」には滑り台を滑って降りました。下の運動場とプールの間には藤棚がありました。プールの向う側には大きなチューリップの花壇があり、春になると赤や黄色の美しい花があふれていました。

私たちは園舎に戻ると、真ん中の広い部屋でリズムゲーム、歌、お遊戯などをしました。絵本の話聞くときには皆で円形に並びました。どの活動が一番好きだったかということはとても難しいことです。お弁当を頂く前には、皆で“天のお父様、今ここに頂くご飯を感謝します。アーメン”を歌いました。それからお

昼寝の時間がありました。それは別室でして畳が一段と高い所におさまっており、一人一人の子供用に低い木製の仕切りがしてありました。

そこで私たちが過ごした日々はとても良いリズムで行われたと思います。ですから今私はまるで紙芝居を見るように一つ一つの場面を心の眼で描くことができます。幾つかのエピソードで特に目立つものは私の幼稚園時代の思い出を真に豊富にしてくれています。

幾つかは可笑しく、幾つかはまじめな話なのです。私がトマト組に入ってすぐのこと（それが何時頃だったのか忘れましたが）私は一人で家まで走って帰ってきたのです。ドクター宗（私の父）が診察室から出て来られて、何もお聞きになりませんでした。私がそこにいるのを見られてとても驚かれたようでした。母が呼ばれ、庭に面した廊下に置いてあるおまるの横に立っている私を見つけました。このパズルのすべては静かに解かれました。ナンバー2（うんち）でも（わざわざ）帰って来なくてもよいと云われました。私が遅咲きだったのは明らかですが、グレース幼稚園で間違

て立っていました。泣きませんでした。が、やっと私も前に走るべきだと気付いたくらいです！

クリスマスは格別でした。子供用に書かれたキャロルを歌い、日曜学校と同じ聖劇が行われました。私の家には美しいクリスマスツリーがありました。私の誕生日のように家族や友達がお祝いに集まりました。恵子ちゃんと私はグレース幼稚園でならった歌やお遊戯をしました。

ある日、俊彦ちゃんが水たまりで出来た氷のかけらを持つて来て、滑り台の上から下の運動場に向かってその上に乗かって滑り降りました。きっと彼はそれを何度もしたのでしょう。私はその総てのことをずっと見ていました。どこからともなく園長先生が出て来られ、俊彦ちゃんに話かけました。その後彼はその遊びを止めたので、それはやってはならないものだったと分かりました。グレース幼稚園の良いことは、こうしなさいとかあれしなさいいけない”と（がみがみ）云われなかったことです。やってはならないことは、私の家のように静かに説明されたのです。

いの感じをもったことは一度もありませんでした。私は、夏には何かのアレルギーのため、足を引き掻き、足は包帯で巻かれていました。

それで皆のようにプールで遊ぶことは出来なかったのです。私は彼らが水遊びするのをプールの側で松木先生の隣に座って見ていました。松木先生はベンチで私達の間に何かを置いて下さいました。以前に見たことのないものでしたので、とても美しいものだと感心して魅入りました。楕円形でベージュ色の上にピカピカのセピア色で色つけがしてありました。ただ座ってそれを見つづけていました。当然私はそうすべきと思っていたのです。後でそれはお饅頭！と呼ばれているものだとなりました。

運動会はハイライトのひとつでした。私は一番小さく、一番背の高い信善さんとペアにされました。私達是一緒に走って、玉入れレースに参加しました。私は一人では何をやっていいか分らなかったのでしょうか。4歳になっても、スタートラインで、何をするのか前もって分からなかったくらいです。大きな音がして、皆が前に走り出しました。でも私はそれを暫らく眺め

ある日私達のクラスは、写真館へ遠出しました。母は、私のために特別にカーディガンを編んでくれ、花籠の刺繍のしてあるドレスの上に着せてくれました。カメラの前に座る私の順番が来る寸前、私は3つのボタン全部をかけることに決めましたのでお花の全部がその下に隠れてしまいました。家に帰ったときボタンは全部かかったままでしたが、何故そうしないといけない気持になったのか説明出来ませんでした。兎に角私が楽しんだあのすばらしいグレース幼稚園と分かれる日は間もなくやってきました。4月になるとカルチュアショックが待っているとは予想もつきませんでした。

ティーンエイジャーの時、私は1952年日本聖公会の教会で按手礼を受けました。聖公会には第二次大戦独自の（歴史の）一章が迫りまして、その期間の事を直接知っている方々を存知上げていました。しかしこの事は別の話です。時代順に云いますと、私は京都の同志社女子中学に入学するのに家を離れる前の小学6年の時、河邊満甕牧師より洗礼を受けました。当時、満甕先生が“あなたは（洗礼を受ける）準備がで

きていると信じます”といわれた言葉を今でもはつきり思い出します。日曜学校では主に河邊順子先生より学びましたが、それから4年間学ぶ母の出身校である同志社に入学する前の時期の私の信仰の強い支えとなりました。(母は同志社女学校、専門学校卒業)母の信仰は1930年に遡ります。ともかく母が、私が順子先生の日曜学校に通うようになることと随分関係しています。母は私が自分で靴をはける年頃になると、順子先生の日曜学校に入れるようにしたといっていました。順子先生は第2次大戦中、生徒が最後の一人になっても日曜学校を続けると決意していました。私は疎開で京都府相楽郡にいた1年半(3、4年生)を除きずっと出席していました。

満甕先生が1930年代に他の牧師先生方による教会裁判で、彼の説教はあまりにも学問的なので、他のフリーメソジスト教会牧師達と合わないとの理由により、牧師の任を解かれたことを2004年になって知りました。満甕先生はオクスフォード大学で高等批判神学を学ばれていたのです。

私の主人の友人である土山牧民先生(前玉川大学教授、退役された教団の牧師)よりこの話を聞いたとき、

もつと満甕先生からも学んでおきたかったと痛感しました。私は若いとき、ほんの少し高等批判神学について知っていました。かいつまんで云いなおすと、聖書の言葉のひとつひとつにつき、ギリシャ語かヘブライ語で語源的に解釈するのです。云うまでもなく私はこのようなひたむきな学者から信仰への道に導かれたことを誇りに思います。順子先生からはそのひたむきな信仰を通して、私は計り知れぬ影響を受けました。

また思い出しますのは、河邊のおじいさんが祈禱会のグループの方々と家に来て下さり“白金のひもの絶ゆる日はありなん”を皆で歌ってくださいました。

この歌は有馬華子ちゃんが亡くなったときの仏式のお葬式で、私が歌いました。彼女は小学6年生でした。順子先生は、彼女は私の日曜学校の生徒でした。それであなたが歌つてあげると良いでしょう。”と私に云われました。順子先生は9歳と云う小さな私が、死とは何かについてその事実より以上にさどっていることを沈黙の中に云われていたのだと思います。

幾人かの大人の人々は優れた見識の持ち主であり、私はあの年頃でそのような人々に囲まれていたことを非常に感謝しています。